

総合研修訓練センター オープン!!

2016年4月、「総合研修訓練センター」が開所しました。

この施設は、これまで各所に点在していた各部門の研修施設を統合するとともに営業線に準じた訓練線と研修棟を有し、時間的・空間的制約を受けずに「本番さながら」の訓練ができる場となっています。

研修・訓練を重ねるとともに部門間の連携を深め、東京メトログループの総合力を高めていきます。



施設内容紹介

所在地／東京都江東区新木場4丁目4番15
面積／敷地面積 約27,000㎡ 延床面積 約19,000㎡

全体図



■ 訓練線設備

各種分岐器、軌道、ロングレール／カテナリー架線(1500V)、剛体架線(1500V)、第三軌条／各種信号設備、保安装置／模擬駅(3両ホーム：2駅、10両ホーム：1駅)／訓練線トンネル(約180m)／訓練用高架橋・橋りょう／訓練用エレベーター、エスカレーター

■ 運転実習線

■ 技術実習線

■ 研修棟

一般教室：9室／動力車操縦者専用教室：2室／CAI教室：2室／シミュレータ・車両教材室：2室／安全繋想館／SSC(ステップアップステーションセンター)／講堂(約500人収容)／食堂

運転実習線(列車走行エリア)

トンネル区間と地上区間を兼ね備え、実車を使用した、総合的な訓練が可能になっています。トンネルのほか3両ホーム、また、訓練線と離れた場所に10両ホームも設けられており、10両ホームでは10両編成を据え付けた実地訓練も行うことができます。研修棟の1階・2階には、ホーム・コンコース・エスカレーター・ホームドアなどの駅設備がそろった「模擬駅」を設けています。実車が走行するため緊張感を持って、本物の駅さながらの訓練を行うこともできるようになっています。

これまでの営業線で起きた事例を題材に、関係部門の社員が集まり、営業線と同様の車両、設備を使って訓練を行うなど、いままでできなかった部門横断訓練がいつでも実施できるようになりました。



技術実習線 (非通電エリア)

通常、列車が走行しないため、失敗を恐れずに設備の分解や修理などの実地訓練が行えます。訓練の成果を競う技能競技会も行い、技術・技能の伝承を進めていきます。また、東西線で使用しているものと同じ構造の橋りょうも設け、構造を学び、補強・点検などの訓練をすることも可能です。



SSC (ステップアップステーションセンター)

改札・窓口、券売機など、駅そのものを再現した施設です。上部から訓練の様子などを見られるよう、開放的な吹き抜けの構造をとっており、駅業務における知識と技能を磨き、先輩や同僚とも接客や技術を共有、伝承できるようになっています。



安全繫想館 (旧「事故に学ぶ展示室」)

鉄道事故の資料展示やヒューマンエラーの疑似体験により、安全の大切さを“目で見て、耳で聞いて、心で感じる”ことのできる施設です。決して忘れてはならない日比谷線列車脱線衝突事故はもちろんのこと、過去の事故の貴重な教訓を風化させることなく、『安全確保』への強い想いを未来に繋いでいこうとの思いが込められています。同じ過ちを二度と繰り返すことがないように、更に安全意識の高い企業風土を築き上げていくことを目的として開設されました。「人間の起こす失敗(エラー)は背景(要因)がある」ことを理解させ、ヒューマンエラーを未然に防ぐための「気づき」を養う場として今後も十分に活用し、事故防止と安全の確保に努めていきます。



シミュレータ・車両教材室

7000系と16000系を使った仮想運転訓練や、お客様案内シミュレーションを行うことができる設備です。スクリーン映像を改良して高度なCGが使用され、より現実に近い環境を体感できます。



電気教習室

営業線に設置されている電気設備(変電設備、電機設備、信号設備等)を設置し、列車運行に影響がない環境で、実物に触れて学ぶことができます。



講堂

社員向けの安全に関する講演会や技能向上に向けた各種発表会などが行われます。約500人収容可能で、災害時には一時避難場所にもなります。



太陽光パネル・屋上緑化・壁面緑化

屋上には太陽光パネルを設け、センター内の補助電源として活用しています。また、屋上緑化や壁面緑化により断熱性を向上させるとともに、地中熱を冷暖房の熱源として利用するなど環境負荷低減に努めています。



担当者のコメント



総合研修訓練センター
所長
川上 幸一

総合研修訓練センターの役割は、社員が腕を磨く「場」と「仕組み」を提供することです。センターでは、教室で「知識」を習得するだけでなく、運転実習線、技術実習線、橋りょう、SSC、シミュレータ、スケルトン教室等において「実技」を身に付けることができるようになりました。さらに、鉄道本部各部署に集まってもらい、過去の輸送障害事象を訓練線で再現し、復旧までの連絡等を行う「部門横断合同訓練」も新たに実施いたします。

このような「場」と「仕組み」を用いた人材育成により、お客様から「以前にも増して安心して利用できるようになった」と思っていたいただけるような東京メトロにしていこうと、お客様や社会に恩返ししていきたいと思います。